

# ニッポン 病院の力 実力

国内で年間19万人以上の命を奪う心疾患には、心臓の3本の太い冠動脈が詰まる心筋梗塞をはじめ、心臓の弁が正常に機能しない弁膜症、心臓が全身へ血液を運ぶ大動脈瘤(りゅうじゅ)破裂など、さまざまな病気が潜む。

いずれも専門性の高い手術が求められ、医師によって得意な病気の手術が異なることが多い。また、大動脈瘤破裂や、血管壁に血液が入り込んで裂ける大動脈瘤解離(かいり)は、症状が出た直後に救命救急が必要だが、都内でも専門医が少ないのが現状だ。

そんな心疾患全般でハイクオリティな医療を24時間体制で提供すべく、2009年から新体制でフル稼働しているのが帝京大学医学部附属病院心臓血管

## 帝京大医学部附属病院心臓血管外科



〈データ〉下川教授実績(2012年病院実績)  
 ・心臓大動脈手術2055件  
 ・冠動脈バイパス術630(112件)  
 ・弁膜症手術784件(105件)  
 ・胸部大動脈瘤/解離手術657件(62件)  
 ・病院病床数1154床  
 (住所) 〒173-8605 東京都板橋区加賀2の11の1 ☎03・3964・1211

# 患者の術後QOLに配慮 ハイクオリティな治療

外科。同年9月に着任した下川智樹主任教授(45)写真、内もIIが、リターニッシュを發揮し、日本一の治療数を目指している。

「心疾患では、大動脈瘤破裂のような場合は、救命救急医療が不可欠です。一方で、僧帽(そうぼう)弁のような治療では、術後の生活の質(QOL)を考慮したキズの小さな低



侵襲心臓手術(MICS)も、患者さんには役立ちます。救命救急とQOLを両輪の輪に、標準以上のハイクオリティな治療を提供する体制を整えました」

こう話す下川教授は、心疾患手術で日本一の症例数を誇る榊原記念病院で、技術の向上に努めてきた。冠動脈バイパス手術、僧帽弁手術、大動脈瘤手術のいずれも得意とするスペシャ

リストだ。

患者の身体的な負担が重くなる人工心肺を使わない「オフポンプ」手術も数多く手掛ける。そんなハイクオリティな治療を積み重ねたことで、従来は20センチも胸を切開していた僧帽弁の手術も、キズが自立たない6センチ程度のMICSで成果を上げている。

「僧帽弁は、弁の一部が壊れていても、長年経過しなければ

症状は出ません。しかし、症状が出た頃には心筋へのダメージが大きくなっているため、最近では、無症状の段階でも手術が標準治療として勧められています。無症状の患者さんに、大きなキズの手術はなるべく避けたい。MICSはそのために役立ちます」(下川教授)

小さな切開で行う手術は、視界が狭いゆえに時間がかかりやすく、大動脈損傷などの合併症の危険もはらむ。下川教授は、高度な技術で手術時間も短縮したMICSで、QOL向上を実践。都内でもまだ数少ない。さらに、血管から細い管のようなカテーテルを通し、大動脈の弁を置換する治療など、さまざまなことに取り組んでいる。

「当科だけでなく、循環器内科、麻酔科、救命救急科、榊原記念病院とも連携しながら、クオリティの高い技術をもっと向上させて、近未来にロボット(タウインチ)手術を導入し、これまで以上に身体への負担の少ない治療も行いたい」と下川教授。夢に近づいていく研究(けんさん)を積み日々を過ごしている。

(安達純子)